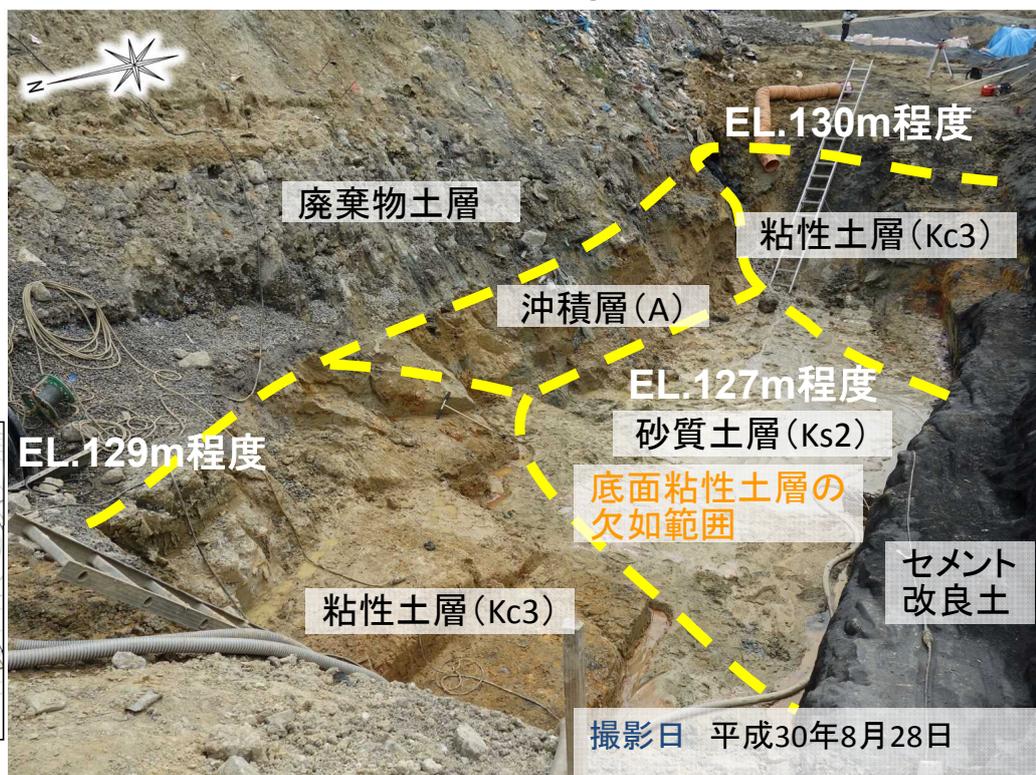


第26回旧RD最終処分場問題連絡協議会

工事の施工方法について

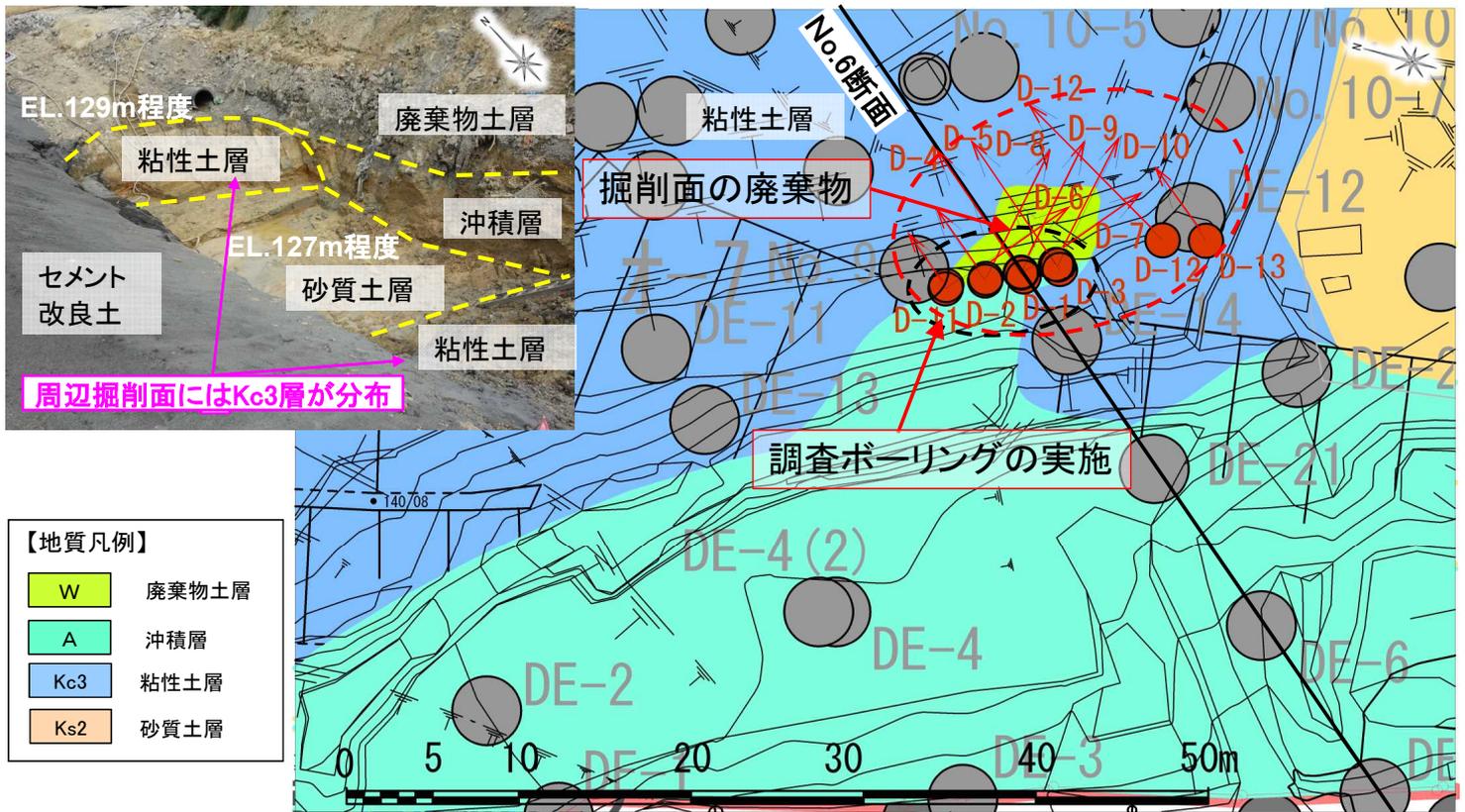
平成30年10月22日

廃棄物土掘削(No.5+10付近)の状況



- ・ D工区東側での計画掘削ラインでの廃棄物土掘削は完了
- ・ 上下流側では底面粘性土層が層厚約2m～3m程度で厚く分布し、中央部の幅約9mの範囲には沖積層が分布していた

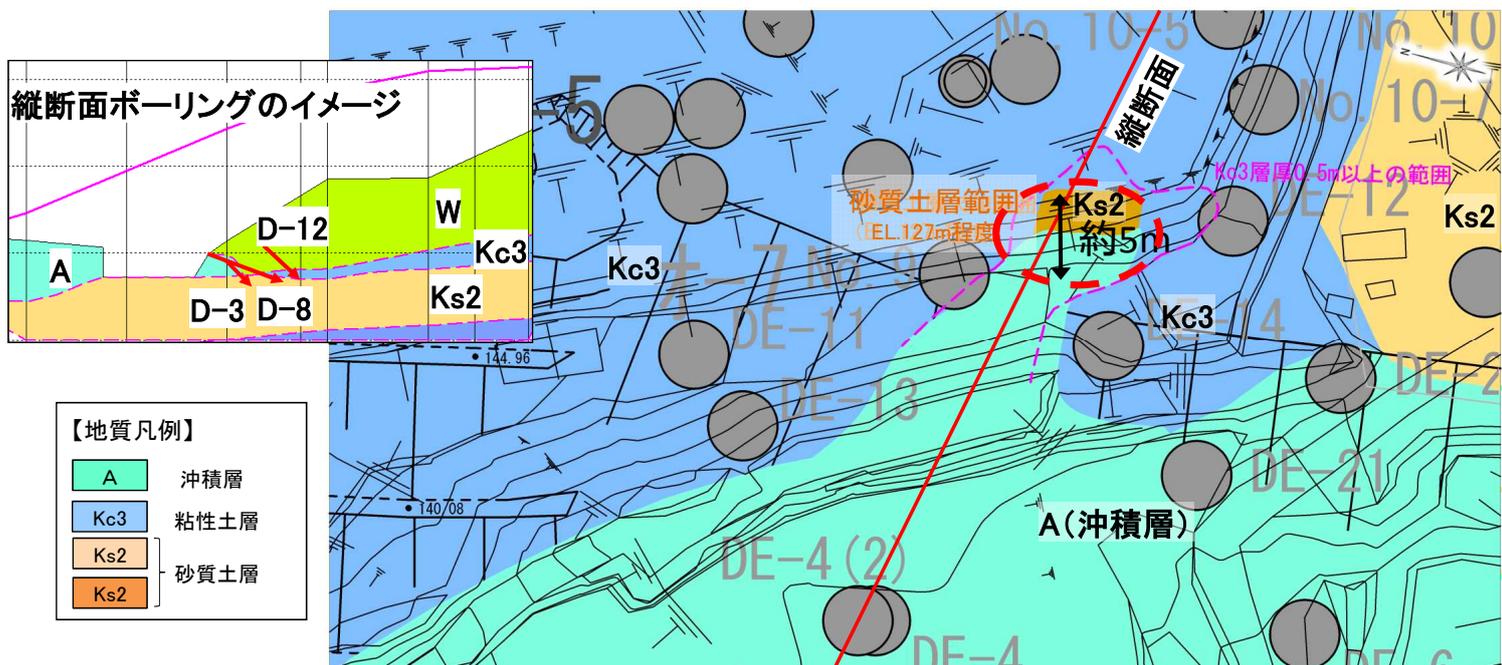
D工区掘削法面部地質調査結果(1)



- 掘削面に沖積層が存在していたため、背面にある粘性土層(Kc3)の分布を確認するために斜め方向の調査ボーリングを行った。

D工区掘削法面部地質調査結果(2)

- 調査ボーリングは、立体的にKc3層の分布を確認するために、斜めボーリング(EL.129.5m~EL.131.0mから傾斜20°~45°)を計13箇所で行った。
- 調査の結果、最大5m程度の奥行きで、Kc3層が欠落している範囲があった。



掘削法面の遮水工の施工方法

・粘性土層(Kc3)が欠落している範囲の遮水工は、廃棄物土斜面の背面にあるKc3層とオープン掘削で施工した底面遮水工を接続するため、D・E工区東側(前回連絡協議会資料4)と同じく掘削面の上部からケーシング掘削を行い、遮水材(コンクリート)で置換を行う。

